

1 教育・保育施設

教育・保育施設の進捗状況は、別紙1「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表1」のとおりである。また、点検・評価の結果は次のとおりである。

(1) 保育所利用の需給過不足

保育所利用の需給過不足については、3歳未満では供給不足、3歳以上では供給過剰になりつつある。待機児童の解消に向け、認可保育所の定員拡充のほか、認定こども園の整備等についても検討いただきたい。

(2) 児童人口推計の見直し

事業計画の児童人口推計では、0歳人口が平成25年をピークに、1～2歳人口が平成27年をピークに減少に転じることになっているが、実際はそうになっておらず、特に0歳人口を中心として推計と実績に乖離が生じている。教育・保育施設の必要数の前提となる児童人口推計を修正したうえで、教育・保育施設の必要数について再検討する必要がある。

(3) 子育て世代の転出超過

小金井市において子育て世代(25歳～39歳)が転出超過となっていることは残念である。今後、事業計画変更に当たり、子育てしやすいまち、保育所に入りやすいまちということを打ち出せるように、保育入所定員を拡充し、子育て世代にとっての魅力を高める必要がある。

2 地域子ども・子育て支援事業

地域子ども・子育て支援事業の進捗状況は、別紙2「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表2」のとおりである。また、点検・評価の結果は次のとおりである。

(1) 利用者支援事業

① 入所相談支援員の活動が平日日中に限られており、仕事をしている人にとっては非常に相談しにくい印象がある。土曜日実施は厳しいかもしれないが、夜間相談の実施は検討していただきたい。

② 入所相談支援員の中心業務は専門的相談である。入所相談支援員については、専門的相談を担えるだけのスキル向上を図るとともに、保育士等の資格職の任用についても検討していただきたい。また、入所相談支援員の本来業務からすると、事務的業務を減らし、相談業務に注力するようにしていただきたい。

③ 保育課内で入所相談支援員を孤立させることなく、他の職員との連携を怠らないような体制づくりに努めていただきたい。

(2) 病児保育事業、子育て援助活動支援事業(病児・緊急対応強化事業)

病児・病後児保育事業の利用者が少ない理由として、施設の所在地と利用

者が限定されていることがあげられる。利用者が利用しやすいように、病児・病後児保育事業を拡充していただきたい。

また、ファミリーサポートセンター事業において病児対応を行うことも検討していただきたい。

(3) 一時預かり事業

利用者から利用しにくいとの声が多いので、利用しにくさの解消に向け、一時預かりの利用定員の拡大を行っていただきたい。

(4) その他

今後、子ども・子育て支援施策へのニーズ拡大に伴い、子ども・子育て支援施策に要する経費がさらに増大することが予見されるが、保育料の値上げ改定による生み出し財源の使途について、保育所利用者に理解いただくことが必要と思われる。保育料の値上げ改定に際しては、利用者にはできる限り丁寧に説明を尽くすよう要望する。

3 子ども・子育て支援施策

子ども・子育て支援施策の進捗状況及び点検・評価の結果は、別紙3「「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市子ども・子育て支援事業計画)事業進捗状況評価表3」のとおりである。

平成26年度の評価結果を受け、平成27年度に課題の改善方策を立て、それを実施し、望ましい成果が得られた事業がいくつか見られた。これは、子ども・子育て支援施策の分野に限らず、公務全般の事業実施のあり方として望ましいものである。

一方、平成26年度の評価結果において「引き続き検討する」「検討を行う予定である」等の記載をしておきながら、平成27年度の評価においてもまったく同様の記載をしている事業が複数存在した。これは、評価表の記載の問題にとどまらず、担当事業のあり方について何も考えや工夫をせずに前例踏襲で行えばよい、あるいは課題を先送りすればよいとの姿勢のようにも見受けられる。

今後は、担当事業に課題があるならば、改善方策を考え、実施し、着実に改善につなげるようにしていただきたい。また、どのように課題を捉え、検討し、改善方策を行ったかについても評価表上に明記いただきたい。

4 その他

本件に係る審議の質を高めるために、審議のあり方については再考の余地がある。委員も質問事項を可能な限り事前提出するなどの協力は行うので、十分な審議時間を確保いただくなどの改善をお願いしたい。